

## 第65回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和7年1月24日（金） 13：00－15：00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

常田座長、杉田委員、関委員、永田委員、野村委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

風木局長、渡邊審議官、松本参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局戦略官（宇宙利用・国際宇宙探査担当）付

原田戦略官

総務省国際戦略局宇宙通信政策課

三宅課長補佐

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所（ISAS）

國中所長

川崎理事補佐長

塩谷准教授

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構国際宇宙探査センター

山中センター長

東京大学

新谷教授

4. 議事要旨

(1) 宇宙技術戦略のローリングに関する変更提案

宇宙技術戦略のローリングに関する変更提案について、資料1を用いて、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）から変更の提案があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等）

- 全体を通して、基本的な技術の開発方針には変更がないものの、技術の進展を踏まえ、具体的な技術要素を盛り込みたいということか
- 超小型探査技術はプラネタリーディフェンスでも世界に存在感を発揮できるもの。日本がこの分野を引っ張っていくという記載にできないか
- 深宇宙に向かうものは宇宙機と呼ぶべきではないか
- 軌道間輸送におけるコスト削減に取り組むために、抵毒技術に取り組むことも記載すべきではないか
- 小型宇宙機の特性に則した信頼性・冗長性の確保の基本的な考え方を議論すべきではないか
- 月面における月通信・測位ネットワークの構築に向けての記載は、技術的な進展があったために変更しているのか
- 月面科学を産業につなげていく上で、今回の提案は重要。基礎月面環境データや観測技術は、分野共通基盤に記載のソフトウェア技術に類似性がある。こちらの記載も変更

すべきではないか

(2) 月面地震計の開発状況報告

月面地震計の開発状況について、資料2を用いて、東京大学新谷教授から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

- 国際社会においてはフランスが先行していると認識。日本の強みとなるのはこれまで培ってきた LUNAR-A で搭載していた短周期地震計の技術なのか
- 軽量化に向けた取組はされているのか
- 月震計は月面にどのように設置するのか
- 委員会としてはぜひ応援する、ぜひ実現に向けて頑張っていたきたい

(3) HWO (ハビタブル・ワールズ・オブザーバトリー) に関する報告

HWO について、資料3を用いて、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 (ISAS) から報告があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

- コミュニティでの検討は進んでいるのか
- 我が国の具体的な貢献としては、2つ挙げていただいたが紫外線領域については知見のない専門家が参画しているが、今後規模を増やしていくべきではないか
- 各国が純粋学問である天文学に大きな予算をつぎ込む意図をしっかりと理解する必要がある

以 上